

上位の政策名	政策目標3 個性が輝く高等教育の推進と私学の振興	
施策名	施策目標3 - 3 意欲ある学生への支援体制の整備	
主管課 及び関係課 (課長名)	(主管課) 高等教育局学生課 (課長: 戸渡速志)	
基本目標 及び達成目標	基本目標3 - 3 (基準年度: 毎年度 達成年度: 毎年度) ----- 教育を受ける意欲と能力のある者がより多くこれを受けられるよう奨学金の充実を図る。	達成度合い又は進捗状況 概ね順調に進捗
	達成目標3 - 3 - 1(基準年度: 毎年度 達成年度: 毎年度) ----- 学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、基準適格申請者に対する貸与率の改善に努める。	概ね順調に進捗
	達成目標3 - 3 - 2(基準年度: 毎年度 達成年度: 毎年度) ----- 奨学金を希望する者がより多くこれを受けられるよう、貸与人員の増員に努める。	概ね順調に進捗
	達成目標3 - 3 - 3(基準年度: 毎年度 達成年度: 毎年度) ----- 学生生活費等の動向を踏まえ、学生が安心して学べるよう、貸与月額 の充実に努める。	概ね順調に進捗
	達成目標3 - 3 - 4(基準年度: 毎年度 達成年度: 毎年度) ----- 奨学金事業の原資となる奨学生からの返還金を確実に回収するため、 口座振替(リレー口座)への加入を促進する。	概ね順調に進捗
	達成目標3 - 3 - 5(基準年度: 毎年度 達成年度: 毎年度) ----- 奨学金希望者及び大学等担当者の利便性の向上及び処理の迅速化等の ための申請手続の電子化を推進する。	概ね順調に進捗
現状の 分析と 今後の 課題	各達成目標の達成度合い(達成年度が到来した達成目標については総括)	
	達成目標3 - 3 - 1 平成14年度の達成目標の達成については、指標を踏まえて分析を行った結果、昨今の景気低迷により、奨学金を希望する学生が増加し、基準適格者数も増加している中で、基準適格者に対する貸与率が着実に改善されつつある。 申込方法として、採用されるまで何度も申請することが可能であること、無利子と有利子の併願申請(無利子で採用されなかった場合に、有利子を希望することができる制度)が可能であるため、基準適格者数は延べ人数となっているが、最近では、補正予算による対応を含め、無利子及び有利子全体において、基準適格者ほぼ全員への貸与を行っている。 なお、保護者の死亡や失職等によって家計が急変しても、学生が安心して学べるよう、無利子で貸与を行う、「緊急採用奨学金」(平成11年度創設)を年間を通じて随時受け付けを行い、これまで、希望者全員を採用してきている。	
	達成目標3 - 3 - 2 平成14年度の達成目標の達成については、指標を踏まえて分析を行った結果、奨学金を希望する学生が増加する中で、それに応えられるよう、対前年度比4万5千人増の79万8千人に奨学金を貸与することとし、より多くの学生に奨学金を貸与することができた。	
	達成目標3 - 3 - 3 平成14年度の達成目標の達成については、指標を踏まえて分析を行った結果、平成12、14年度は貸与月額が前年度据え置きであるが、授業料や学生生活費等の動向を適切に踏まえた結果であり、学生の経済的負担を軽減するに足る貸与月額となっている。	
	達成目標3 - 3 - 4 平成14年度の達成目標の達成については、指標を踏まえて分析を行った結果、口座振替制度の加入率は着実に改善されている。育英奨学事業は奨学生からの返還金をその原資の一部として循環運用しており、事業の円滑な実施のため不可欠であるため、引き続き、口座振替制度への加入を徹底する必要がある。	
	達成目標3 - 3 - 5 平成14年度の達成目標の達成については、指標を踏まえて分析を行った結果、平成14年度から、インターネットを利用した奨学金申請システム(通称:イクシス)が導入され、多くの学校がイクシスを活用することで、奨学金の申請手続が効率化された。	
基本目標達成 に向けての進 捗状況	平成14年度の基本目標の達成度合いについては、各達成目標の達成度合いが想定どおり達成されたことから概ね達成と判断できる。 平成14年度においては、当初予算でより多くの奨学金を希望する学生が貸与を受けられるよう充実を図り、無利子・有利子合わせて対前年度比4万5千人増の79万8千人の学生等に対し、対前年度434億円増の5,166億円の奨学金を貸与することとしていた。	

	<p>しかしながら昨今の景気不況の中で、特に有利子奨学金を希望する学生が大幅に増加したため、奨学金を申請したが当初予算内で採用できなかった学生に対しても奨学金を貸与するため、有利子奨学金において補正予算で所要の措置を図った。この結果、最後まで奨学金を希望した学生については、基準を満たす希望者に奨学金を貸与したところである。</p>					
今後の課題	<p>奨学金を希望する学生が飛躍的に増加している中で、奨学金を希望する学生が確実にこれを受けられるよう、厳しい財政状況下ではあるが、学生の希望状況や生活費等を踏まえつつ、引き続き、所要の充実策を講ずることが必要である。</p> <p>また、円滑な事業の実施を図る観点から、奨学金の申請手続等の更なる電子化の推進や返還金回収業務の改善を進めることが必要である。</p>					
評価結果の15年度以降の政策への反映方針 (政策評価法第11条に基づく総務大臣への通知事項)	<p>学ぶ意欲と能力のある学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、奨学金を希望する学生支援のため、引き続き、奨学金の充実を図ることが必要である。</p> <p>平成15年度予算においては、無利子奨学金では貸与人員を2万1千人増員するとともに、貸与月額を大学・大学院等で2千円増額し、有利子奨学金では貸与人員を4万7千人増員するとともに、入学時の需要に対応した奨学金(30万円一時金)の創設により、事業全体で、対前年度比6万8千人増の86万6千人の学生・生徒に対し、624億円増の5,790億円の奨学金を貸与することとしている。</p> <p>また、平成16年度には、日本育英会を廃止して、独立行政法人日本学生支援機構において奨学金事業を実施することとなるが、この新法人においても、引き続き、これまでの目標達成を目指し、無利子及び有利子の奨学金事業を確実に継続し、充実する必要がある。</p>					
指標	指標名	10	11	12	13	14
	基準適格申請者に対する貸与率 (達成目標 3-3-1 関係)	74.8	85.8	83.3	85.2	89.8
	貸与人員(万人) (達成目標 3-3-2 関係)	49.9	64.6	69.1	75.3	79.8
	貸与月額の推移: 私立大学自宅外の場合(円) (達成目標 3-3-3 関係)	59,000	60,000	60,000	61,000	61,000
	口座振替制度の加入率 (達成目標 3-3-4 関係)	49.2	59.0	62.4	64.5	70.3
	奨学金申請システムの利用(参加)率 (達成目標 3-3-5 関係)	-	-	-	-	79.2
参考指標	緊急採用奨学金による実績貸与人員(人) (達成目標 3-3-1、2 関係)	-	4,006	8,736	5,326	7,693
備考						

施策目標3 - 3 意欲ある学生への支援体制の整備

